

日本ユニシス

読むスピードを向上させる文字レイアウト変換「読書アシスト」書式で、 芥川賞作家や元サッカー日本代表などの書籍の一部を無償公開

～ 文藝春秋社やワニブックス社など複数出版社の協力で、試し読みコンテンツを提供 ～

日本ユニシスは、「読書アシスト」書式のコンテンツを2022年1月31日まで無償公開します。

「読書アシスト」は特別な訓練をしなくても、文字レイアウト変換技術により文章を読むスピードを約1.5～2倍に向上させることができます。今回の無償公開では、小説だけでなくエッセイやビジネス書、実用書に至るまで、さまざまなジャンルの作品の一部を「読書アシスト」で体験できます。

日本ユニシスは、本無償公開を通じて新たな読書体験を提供し、利用者の反応を踏まえ、さまざまなコンテンツへの「読書アシスト」書式の適用を目指します。

【背景】

日本ユニシスは、昨年実施した「読書アシスト」無償公開時の利用者の声を受け、「読書アシスト」の各種コンテンツへの適用を図っています。さまざまなコンテンツにおける「読書アシスト」の体験を通して、利用者や業界関係者に周知し、今後の適用コンテンツの拡充を目指します。

【無償公開の概要】

「読書アシスト」公式サイトで、芥川賞作家・羽田圭介氏や一流アスリート・中村俊輔氏などの実際に発売されている書籍の一部を「読書アシスト」書式で公開します。無償公開の期間は、2021年10月1日から2022年1月31日までの予定です。

- ・読書アシスト公式サイト <https://lp.reading-assist.com/>
- ・作品一覧 <https://lp.reading-assist.com/#experience> (随時追加予定)

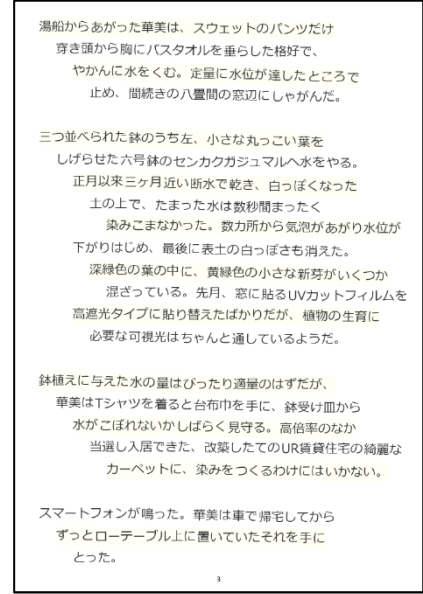
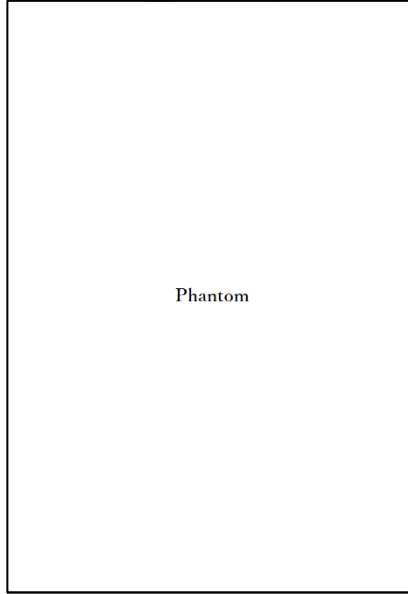
【「読書アシスト」について】

「読書アシスト」は、日本語の文節（意味のわかる最小単位）を判別し、文節ごとに視線をスムーズに誘導するレイアウトに変換する技術です。日本語は英語などの他言語と比較して「文節」が表記上不明瞭なことが多く、文章を読む際に無意識に前後の文節などに視線が戻ることがあります。本技術は「文節」に着目し、以下のようなレイアウトに変換することで、スムーズな視線の移動をアシストします。「読書アシスト」書式を適用したレイアウトでは、1分間に読める文字数が、一般的に400～600字程度であることに対して、特別な速読の訓練をしなくても、最大で1,000文字程度まで、約1.5～2倍のスピードに向上させることができます。

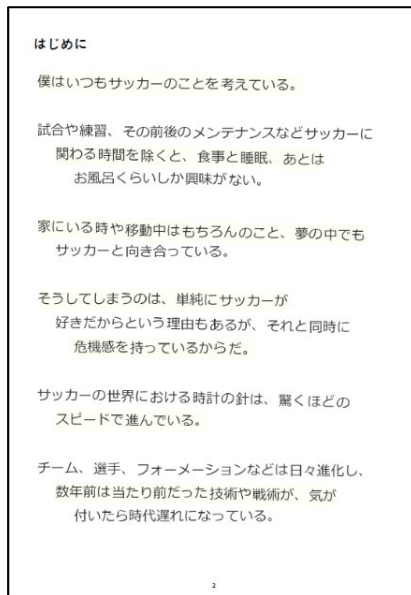
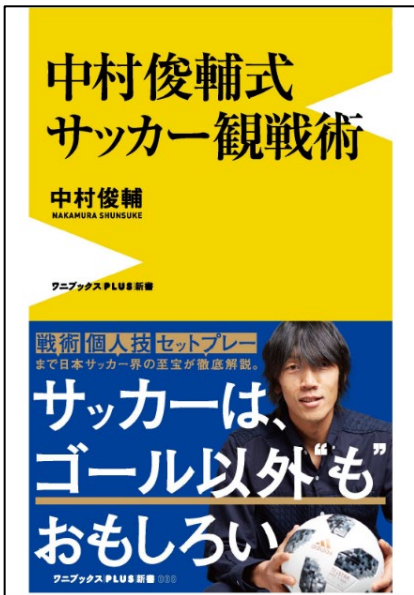
2020年に「Digital Content Expo2020」にて、イノベティブな技術に贈られる「Innovative Technologies 2020 Special Prize -Use-」を受賞しました。

【作品の公開イメージ】

・ Phantom (羽田圭介著／文藝春秋社)



・ 中村俊輔式 サッカー観戦術 (中村俊輔著／ワニブックス社)



【今後の取り組み】

今回の無償公開によって、寄せられた利用者や業界関係者の声をもとに事業化を目指し、各種サービスの開発を進めていきます。

以上

■関連リンク：

- ・ 読書アシスト公式 HP：<https://lp.reading-assist.com/>
- ・ 各種 SNS アカウント：
 - Instagram <https://www.instagram.com/readingassist.tech/>
 - Twitter <https://twitter.com/readingassist/>
 - Facebook <https://www.facebook.com/readingassist.tech/>
- ・ Innovative Technologies 2020 Special Prize -Use-受賞
<https://www.dcxpo.jp/archives/2020/online/i-tec/index.html>

※読書アシストは大日本印刷株式会社の独自技術であり、日本ユニシスは大日本印刷株式会社から利用許諾を受け読書アシスト技術を使用したサービスを展開しています。

※掲載の情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

<報道関係お問い合わせ窓口>

https://www.unisys.co.jp/newsrelease_contact/



日本ユニシスは、2022年4月1日付で会社名（商号）を「BIPROGY 株式会社（ビプロジーカブシキガイシャ、英語表記：BIPROGY Inc.）」に変更します。

BIPROGY は、光が屈折・反射した時に見える 7 色（Blue、Indigo、Purple、Red、Orange、Green、Yellow）の頭文字を使った造語です。光を集約し、7 色に輝かせるハンズオンカンパニーとして、あらゆる垣根を越えた先にある、“光彩”が混ざりあった世界を表現するとともに、「さまざまなビジネスパートナーや多種多様な人々がもつ光彩を掛け合わせ、混とんとした社会の中で新たな道を照らし出すこと」、そして「光彩が状況に応じて変化するように、社会や環境変化に応じて提供する価値を変えていくこと」を意味しています。